

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人 悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぽぽの家」		
所在地	大分県宇佐市大字樋田45-1		
自己評価作成日	令和元年8月28日	評価結果市町村受理日	令和元年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年10月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切に、ゆとりのあるケアを行っています。ご家族様との信頼関係を築き、ご家族様やご利用様が安心して生活を継続できる様に支援しています。レクリエーションや体操等の活動にも力を入れています。玄関を開けると、明るい雰囲気の中、職員や利用者様の楽しそうな笑い声が聞こえてきます。和気あいあいとした、そんなアットホームな施設です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念に基づいた支援がなされており、利用者一人ひとりの人格と尊厳が守られ、常に利用者本位のサービスが提供されている。また、職員は家族との信頼関係を築き、利用者や家族が安心して生活が維持できるように支援している。  
・職員の人材育成がなされており、利用者は健康管理や、医療面・安全面に配慮したケアが日々実施され、不安なく過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、意識付けをする為に朝のミーティングの際に暗唱、実践に繋げていける様に取り組んでいる。	理念は「家庭的な雰囲気の中で、利用者の尊厳を守り、敬愛の精神で接します」など2項目を掲げ、毎朝管理者と職員は唱和し、日々の支援の中で振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには近所の方、地域の方に声掛けし盛大に開催している。近隣の散歩やお花見、お接待等にも出かけて交流に努めている。	盆踊りや秋祭りには、近所の方や地域の方に声掛けし、多くの方が参加している。散歩やお接待などの地域の行事に出かけたり、定期的に見えるボランティアの方等と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、老人会長から相談や質問を受けた時は、アドバイスや助言を行っている。地域の高齢者に対して役立つ事がないか聞いている。困難さはあるが取り組んで行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容を報告、参加者から質問や意見、要望を受けている。次回、経過報告し評価をもらってサービスの向上に活かせる様にしている。	2ヶ月に1回の推進会議で事業所の取り組みや利用者の状況等を報告し、出された意見や要望は職員で話し合いサービス向上に活かしている。自治委員から行事の案内もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談には傾聴してくれる。アドバイスを受けた際は、真摯に受け止めサービスの向上に活かしている。何かがないと足を運ぶことはない。	推進会議の中で事業所の取り組み状況等を伝え、市の職員からアドバイスをもらいサービスの向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念及び方針について勉強会で周知、職員の見守りの方法を徹底する事。身体拘束委員会を定期的に行い、職員にも周知徹底して理解を得る様にしている。	勉強会や身体拘束委員会を定期的開催、「身体拘束禁止行為」を職員全員に周知徹底し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアが虐待に繋がるという事は、職員も勉強会等で理解し周知徹底している。定期的に勉強会のテーマに上げ話し合いをしている。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員と勉強会で理解を深める様にしている。又、社会福祉協議会で主催する成年後見制度の研修に参加できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の時、十分に説明している。不明な点があれば理解、納得をした上で次のステップに進む様にしている。改定の場合は、説明をし理解した上で署名捺印をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から得られた意見や苦情等も、前向きに受け止め勉強会等で話し合い、反映している。家族には訪問時や家族会で常に問いかけている。 運営に活かされている。	運営に関する要望や意見を家族会、面会時、電話・手紙等での近況報告時に常に声掛けし、聞いている。出された要望等は職員で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は傾聴し、生かしていける様に代表者に伝え、働く意欲の向上、サービスの質の向上に繋げている。	運営に関する意見や提案は、勉強会等で聞く機会を設けており、管理者は集約した意見等は代表者に伝え検討し、運営に反映させている。例えば昇降機設置をもらい、利用者の行動範囲が広がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて本人の労働環境作りをしている。資格によっては研修費や交通費の支給も行っている。職員の健康診断も年2回実施を行い、心身の健康を保てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて、研修を受講している。その他、勉強会で全職員が共有できる様に発表している。職員自ら研修の希望があれば受講する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設に見学を依頼したが実現できなかった。過去、同業者と勉強会を開いた事がある。職員も仕事等の悩み、支援方法等の相談をしたり意見交換が出来て良かったとの事。他の施設に働きかけ、実現の方向に進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまで十分に話をし、どうしたいのか本人や家族の気持ちを傾聴。本人が納得する事は難しいが、話す中でいい関係作りを築こうと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、しっかりと話を傾聴、ホームで過ごす事が出来るのか心配される事が多い。信頼関係を作りながら、馴染みの関係作りを行う事で穏やかに過ごす事が出来る様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の状況、思いを把握し柔軟な対応を行い、必要に応じては他の保健施設に繋げる事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で利用者から、教えてもらう事も多くあり、互いに協力しながら穏やかに生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に日頃の状態、暮らしの中での気付き等を報告、利用者の情報を共有し家族との協力関係が築ける様に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪問してくれた時は、継続的に来て頂く様に促している。ボランティアの方には、定期的に来てもらっているので訪問を楽しみに待っている。	馴染みの関係が途切れないよう、働きかけている。ボランティアの方は定期的に見え、馴染みの関係ができています。また、関係性が途切れないように家族が馴染みの美容室に連れて行っている方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合う事もあるが、利用者同士の関係が上手く行かない時は職員が調整役になって支援をする。活動を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状況、習慣、好み等、これまでのケアの工夫の情報を詳しく伝える様にしている。ご家族様の相談、支援も出来る限り対応する様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動、表情等から思いや意向を把握する様に努めている。困難な人には家族や職員と話し合いをしながら日々のケアに反映する様に努めている。	職員は利用者の表情や行動、会話の中から思いや意向の把握に努めている。日頃の記録や家族の思いなどから職員で話し合い、本人本位に検討しケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、環境、日々の暮らし方、サービス利用に至った経緯を知り、これまでの暮らしを捉えていく。家族や本人、職員と馴染みの関係作りを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中での一人ひとりの過ごし方は、身体状態や本人の状況を把握しながら「出来る事、出来ない事」を見極めている。その人らしく過ごせる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践し易い介護計画を作成する為に課題やケアのあり方、気付き等の意見を出し合い作成。定期的にあセスメントやモニタリング等の見直しを行っている。家族の要望も聞きながら作成している。	利用者や家族の要望を聞き、日々の記録から気づきや変化をケアに活かせるよう会議で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。定期的モニタリングと介護計画書の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中にケアの気付き、職員が知りえない事実等、具体的に書く様にしている。職員間で情報共有して日々のケアに活かし、介護計画を見直しそれらを実践へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて多様な支援の方法を講じている。本人や家族の意向も配慮し臨機応変に取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議によって、より良い関係が強化された。周辺情報、支援に関する情報交換、協力関係が少しずつではあるが築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療受診。本人、家族が希望すれば今までのかかりつけ医を基本としている。専門医への受診については情報共有を行い家族に説明、納得の上で同意してもらい医療を受けられる様に支援している。	2週間に1度の往診や本人家族の希望する医療機関への受診、また専門医への受診など、適切な医療を受けられるよう連携し支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の状態変化や異常に気付いた時は、ホームのナースに連絡する。指示をもらうか、ナースが訪問し受診するか適切に判断をして対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来るだけ長期にならない様に相談に努めている。週3～5回、見舞う様にして本人のストレスを軽減できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方については家族にホームの力量対応、医療機関についても説明している。利用者の状態によっては早い段階で話し合いをもって、医療機関との連携に取り組む事もある。	入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所ができることとできないことを十分説明し同意書をもっている。医療機関への移行等共通の理解のもと対応している。基本として看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時については、適切な行動が出来る様に勉強会で学び、実際の場面でも対応方法を行う事で技能を習得できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、ホームでの避難訓練を実施、年2回、1・2階合同で消防署を交えて訓練をしている。夜間での訓練も行っている。地域の方に協力を得るために呼び掛けを行っている。	年2回消防署立ち合いの避難訓練、夜間想定訓練も実施し、月1回避難訓練を行い避難方法や避難経路の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや意向を聞きながらケアを行い、言葉掛けも自己決定し易い様に配慮し、個人情報についても職員も理解している。接遇マナーについては、定期的に会議を開催している。	一人ひとりの人格を尊重し、自己決定を促す言葉かけをしている。接遇マナーについて定期的に会議を開催し日頃のケアの対応について話し合っている。また、気づいたことはその都度、職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示が困難な方には、表情やジェスチャー等で確認する。一人ひとりの反応を注意深く観察する事で、希望、関心を見極めて、自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課の中で時間を区切って過ごしているのではない。一人ひとりの体調に合わせて本人の気持ちを大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容院に行っている人もいる。一人ひとりの個性に応じて髪型、服装など個別に支援。浴衣姿でおしゃれを楽しみ、化粧をすると、とてもいい笑顔をされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けから片付けまで、利用者と一緒にやっている。家族から頂いた食材を調理し、皆で味わいながら食べている。	3食手作りしており、盛り付け、配膳、野菜の下処理、片付けなど利用者のできることを職員と一緒にしている。また、家族からいただいた野菜で、献立を変更することもある。昼食は職員も同じテーブルで食事をし家庭的な雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、水分不足の利用者には工夫をして1000~1200mlまで取れる様にしている。水分が嫌いな方には、家族と相談し好みの飲み物を持って来てもらい取る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて口腔スポンジ使用。自分で出来る方は、声掛け、誘導、見守りを行っている。夕食後は義歯の洗浄、管理を行っている。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	いくつになっても布パンツ使用を基本にしている。排泄チェック表を基に、声掛け誘導を行っている。自立に向けて継続できる様に支援を行っている。	排泄パターンを把握し声掛け自立に向けた支援をしている。自力でトイレに行ける人が多く、プライバシーに配慮しながら、声掛けや見守り、誘導などの支援に工夫がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がたくさん含まれている食材や調理等も工夫している。水分摂取を促し、ヤクルト、ヨーグルト、牛乳等の乳製品を定期的に摂取する様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴。入浴拒否が見られた場合、時間をずらしたり職員を変えて声掛けをしたりと工夫している。一人ひとりにそった支援をしている。	週2回入浴日だが、2ユニットで入浴日が違うのでどちらの風呂でも対応できるようにしている。声掛けや誘導の仕方の工夫で、現在は入浴拒否をする方はおらず、週2回入浴を楽しめる支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい眠りに付ける様に、日中の活動を促している。寝付けない方はホールに出てくることが、一緒に傍に寄り添って眠そうになった時、眠ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れのない様に、服薬チェックを行う。副作用についても分かり易くケースを整理して、全職員に分かる様に徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割をしてもらい、楽しみも一人ひとり違う為、楽しんでいるのか、又、気分転換も視野に入れて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり戸外に出掛けられる様に、協力しながら支援している。車イスを使用しながら、全員が外出できる事を目標にしている。戸外に出ると、楽しそうにされている。	気候や天気の良い日に、近隣に散歩に出かけたり、桜、藤、コスモスなど四季折々の花を見に出かけている。ドライブに出かけたりと外気に触れ、四季の変化を感じられるように支援している。	

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元に持っている方もいるが、無くなった等と言われる為、家族の希望で持たせていない。「お金」については、家族と相談しながら決めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は、毎年、書いてもらっている。家族の方から電話が掛かってくる事が多い。本人が家に掛けて欲しいとの希望があれば、掛ける様にしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節を感じてもらえる様に月ごとに作成している。自分の居室にも自作品を飾られている。壁面飾りは、職員と利用者の季節感あふれる合作である。	共用空間の壁面には、利用者で作った季節感あふれる作品が飾られており、換気や温度管理も配慮され過ごしやすい空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや机を利用している方もいる。ホールのイスより落ち着いてくる利用者もある。又、B棟まで散歩してソファーに座って過ごす事もある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しても難しい物があるので、職員が、落ち着くような雰囲気作りをする事もある。写真があると、会話のきっかけになり落ち着く事もある。	椅子を持参したり、家族の写真や作品を飾るなど、個々人に合った部屋作りがされており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールは危険防止の為、ソファー、テーブル以外は置いていない。居室が分からない方については、ドアに目印をぶら下げる等の工夫をする事で自由に出入りが出来る様にしてストレス軽減に繋げている。			